

平成24年度 財政状況資料集

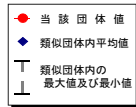
総括表（市町村）

都道府県名	熊本県		市町村類型	1-0	指定団体等の指定状況		区分	平成24年度(千円)	平成23年度(千円)	区分	平成24年度(千円・%)	平成23年度(千円・%)	
					財政健全化等	×							歳入総額
市町村名	水上村		地方交付税種地	2-1	財源超過	×	歳出総額	2,643,624	2,515,969	経常収支比率	75.3	79.0	
					首都	×	歳入歳出差引	272,755	289,880	(※1)	(79.5)	(83.6)	
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	15,141	18,843	標準財政規模	1,861,074	1,772,805	
					中部	×	実質収支	257,614	271,037	財政力指数	0.14	0.15	
人口	22年国調(人)	2,405	産業構造(※5)		過疎	○	単年度収支	-13,423	-3,628	公債費負担比率	15.8	15.6	
	17年国調(人)	2,597			山振	○	積立金	101,134	1,466	健全化判断比率			
	増減率(%)	-7.4			低開発	×	繰上償還金	-	-	実質赤字比率			
住民基本台帳人口(※7)	25.03.31(人)	2,449	区分	22年国調	17年国調	低開発	×	積立金取崩し額	-	-	連結実質赤字比率		
	うち日本人(人)	2,439		第1次	353	352	指数表選定	○	実質単年度収支	87,711	-2,162	実質公債費比率	10.5
	24.03.31(人)	2,475	第2次					基準財政収入額	221,501	235,014	資金不足比率(※4)		
	うち日本人(人)	2,475						基準財政需要額	1,707,049	1,617,844			
	増減率(%)	-1.1						標準税収入額等	277,174	293,575			
うち日本人(%)	-1.5	第3次	540	598		経常経費充当一般財源等	1,403,080	1,398,103					
面積(km ²)	190.96			47.5	48.7		歳入一般財源等	2,276,777	2,291,170				
人口密度(人/km ²)	13												
世帯数(世帯)	854												
職員の状況													
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	2,646,325	2,730,843			
	市区町村長	1	7,360	一般職員	49	134,603	2,747	うち公的資金	2,596,825	2,652,488			
	副市区町村長	1	5,710	うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	94,966	110,809			
	教育長	1	5,020	うち技能労務職員	4	11,188	2,797	収益事業収入	-	-			
	議会議長	1	2,951	教育公務員	-	-	-	土地開発基金現在高	85,109	111,316			
	議会副議長	1	2,433	臨時職員	-	-	-	積立金	1,107,480	1,006,346			
	議会議員	8	2,214	合計	49	134,603	2,747	減債基金	789,732	789,237			
				ラスバイレス指数(※6)	97.3	(89.9)		現在高	789,525	712,114			
								財政調整基金					
								其他特定目的基金					
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧							(※3)	
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名				
(1) 一般会計		(2) 国民健康保険事業		(5) 簡易水道事業		(9) 球磨郡公立多良木病院企業団		(17) 株式会社みずかみ					
		(3) 介護保険事業		(6) 特定環境保全公共下水道事業		(10) 上球磨消防組合		(18) <ま川鉄道株式会社					
		(4) 後期高齢者医療事業		(7) 農業集落排水事業		(11) 人吉球磨広域行政組合(一般会計)							
				(8) 林業集落排水事業		(12) 人吉球磨広域行政組合(人吉球磨ふるさと市町村圏特別会計)							
						(13) 人吉球磨広域行政組合(特別養護老人ホーム特別会計)							
						(14) 熊本県後期高齢者医療広域連合(一般会計)							
						(15) 熊本県後期高齢者医療広域連合(特別会計)							
						(16) 熊本県市町村総合事務組合							

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
 ※6: ラスバイレス指数の()内の数値は、国家公務員の時限的(2年間)給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。
 ※7: 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	2,449	人(H25.3.31現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	2,439	人(H25.3.31現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	190.96	km ²	実質公債費比率	10.5	%
歳入総額	2,916,379	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	2,643,624	千円			
実質収支	267,614	千円			
標準財政規模	1,861,074	千円			
地方債現在高	2,646,325	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

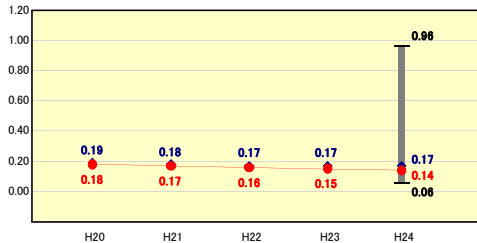
財政力

財政力指数 [0.14]

類似団体内順位 73/131 全国平均 0.49 熊本県平均 0.34

財政力指数の分析欄

昨年度に続き0.01ポイント下降した。本年度も分子を構成する基準財政収入額においては、償却資産の経年償却による減収が続く、また長引く経済情勢の悪化に伴い地元企業に活力が生まれず、地域全体の雇用に冷え込みが見られるなかにおいて、市町村民税・法人税等の地方税を安定的に見込むことは困難であり、自主財源の伸びは当面期待できない状況である。よって、財政力指数が今後上昇するとは考えにくい。



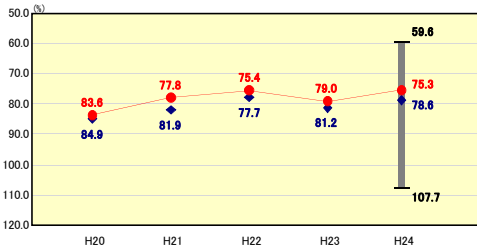
財政構造の弾力性

経常収支比率 [75.3%]

類似団体内順位 49/131 全国平均 90.7 熊本県平均 88.4

経常収支比率の分析欄

類似単体と比較すると、△3.3ポイント、昨年度から比較すると△3.7ポイントの減である。経常的な経費が前年度と比べ減となったこと。公債費償還がピークを經過し本年度も368,541千円の元利償還を行ったことなどにより、75.3%と良好な水準を維持している。



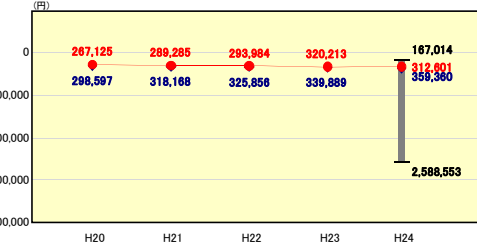
人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [312,601円]

類似団体内順位 48/131 全国平均 116,454 熊本県平均 113,456

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

人件費及び物件費等合計額の人口一人当たり決算額が類似団体を下回っているのは、これまでの集中改革プランによる職員の定員管理の適正化、手当の見直しを含めた人件費の抑制、また食糧費、旅費等の経常経費の見直しなど、行政改革による経常経費の圧縮によるものである。今後も高齢層の退職により人件費は減少すると考えられるが、質の高い行政サービスを提供するためにも過剰な経費圧縮に注意を払いながら、可能な限り経常経費の節減にあたりたい。



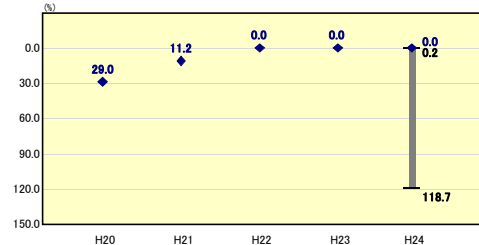
将来負担の状況

将来負担比率 [-%]

類似団体内順位 1/131 全国平均 60.0 熊本県平均 72.5

将来負担比率の分析欄

将来負担額を充当可能財源と基準財政需要額算入見込額との合計額が超過しており、将来負担比率は発生しない。これまでの充当可能基金の計画的な積み増しと、地方債償還がピークを經過しているため地方債残高は今後も緩やかに減少していくと見込まれる。今後も公債費等の義務的経費の削減等行政改革を進め、財政の健全化に努める。



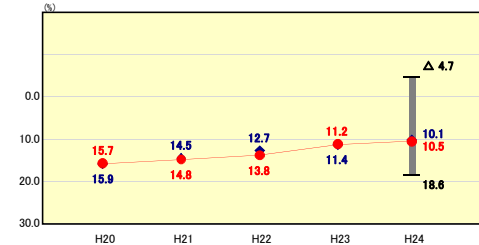
公債費負担の状況

実質公債費比率 [10.5%]

類似団体内順位 68/131 全国平均 9.2 熊本県平均 11.3

実質公債費比率の分析欄

前年度11.2%から本年度10.1%と1.0%減少した。主な要因は、公債費償還がピークを經過し、地方債残高について対前年△330,970千円と大きく減少したこと、分母を構成する普通交付税額が104,004千円増加したことによるものである。24年度以降も償還が終了する過疎債等が控えていること、新規発行額の減少傾向も併せると今後も比率は緩やかに下降していくことが見込まれる。ただし、分母を構成する地方交付税の動向によっては上昇する可能性もある。



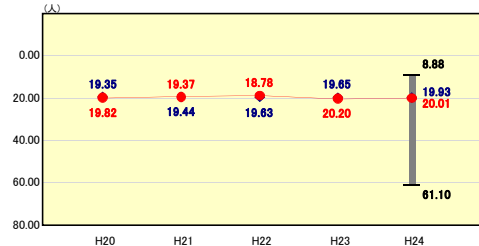
定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [20.01人]

類似団体内順位 59/131 全国平均 7.00 熊本県平均 7.69

人口千人当たり職員数の分析欄

本村の職員数は、類似団体と比較すると△0.08とほぼ同水準にあるが、保育士、スクールバス運転手、調理師、水道手など直営事業に係る人員も含まれている。今後も一般行政職における適正度も熟考しながら行政運営に支障が出ないよう適正管理を実施しなければならない。



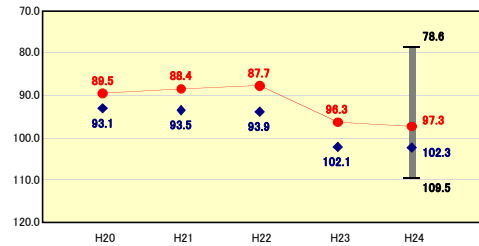
給与水準 (国との比較)

ラスパイレース指数 [97.3]

類似団体内順位 13/131 全国市平均 106.6 全国町村平均 103.2

ラスパイレース指数の分析欄

類似団体と比較すると△5.0ポイントと非常に低い。本村の特徴として、経験年数10年以上の職員の昇給が他団体と比べ遅い傾向にあり、職務職責に応じた給料表の適正な運用、特別昇給制度の運用、人事評価制度の本格的な運用など多角的な視点からの給与水準を検討する必要がある。



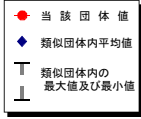
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

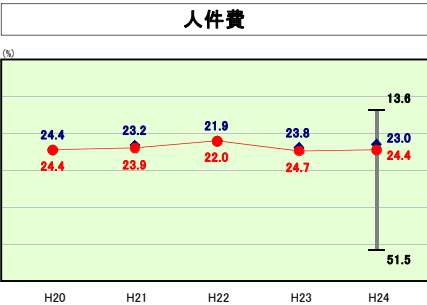
熊本県水上村

経常収支比率の分析

人口	2,449人	(H25.3.31現在)	実収支比率	-%
うち日本人	2,439人	(H25.3.31現在)	実赤字比率	-%
面積	190.96	km ²	実公債費比率	10.5%
歳入総額	2,916,379	千円	実公債費負担率	-%
歳出総額	2,643,624	千円	市町村類型	H20 I-O H21 I-O H22 I-O
実収支	267,614	千円	(年度毎)	H23 I-O H24 I-O
標準財政規模	1,861,074	千円		
地方債現在高	2,646,325	千円		

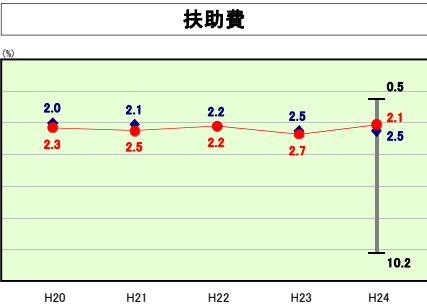


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。



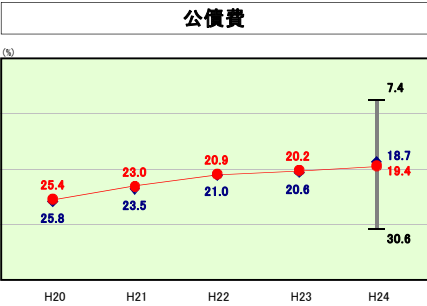
人件費の分析欄

類似団体と比較すると、人件費に係る経常収支比率はおおむね同水準である。しかし、保育士、スクールバス運転手、調理師、水道手など直営事業に係る人件費も含まれているため、一般行政職が占める人件費は決して高くない。今後は民間委託など行政サービスの提供方法の差異も十分検討しながら人件費の適正水準を維持しなければならない。



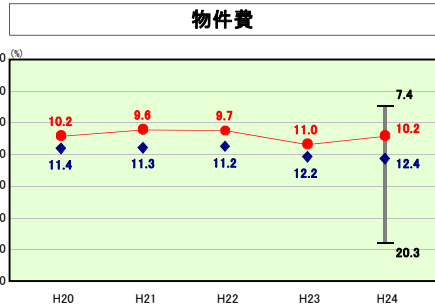
扶助費の分析欄

類似団体と比較すると、扶助費に係る経常収支比率は同水準にあり、おおむね平行線で推移している。今後扶助費は全国的な伸びが予想されているため、比率には上昇傾向が見られるようになってくると考えられる。



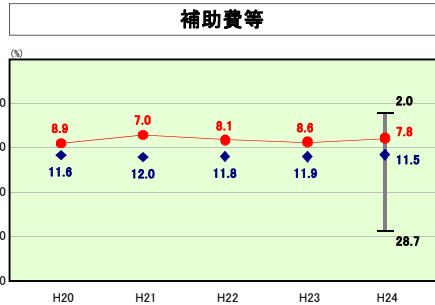
公債費の分析欄

類似団体と比較すると、公債費に係る経常収支比率はおおむね同水準である。これまでに生活環境・教育施設・観光施設等の整備がほぼ終了し、償還のピークを経過していることから地方債残高については対前年△330,970千円と大きく減少した。また、利率4.5%以上の地方債現在高がなく財政に余分な負担はあまりない。今後も新規事業においては、適債事業に留意しながら公債費負担が急激に増加しないよう計画的な社会資本整備を心掛けたい。



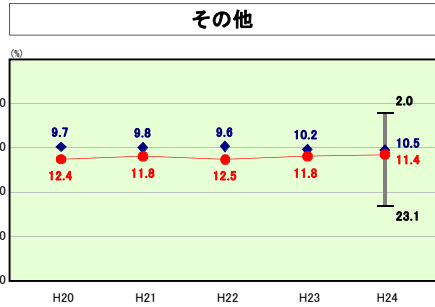
物件費の分析欄

類似団体と比較すると、物件費に係る経常収支比率は△2.2となっている。これは平成17年度から平成21年度にかけて実施した集中改革プランによる行政改革、物件費等経常経費の節減による成果である。今後も物件費が過大にならないよう注意を払いながら適正な物件費予算の配分に努めたい。



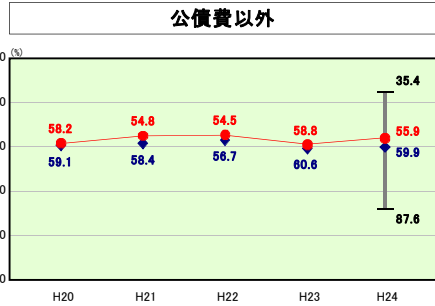
補助費等の分析欄

類似団体と比較すると、補助費等に係る経常収支比率は△3.7と低い。決算ベースで見ると、臨時的な補助事業に影響され前年比13.9%と増となった。今後は、行政評価委員会等第三者機関の意見も聴取しながら、補助金交付事業として適切であるか、十分な効果があるかを適正に判断しなければならない。



その他の分析欄

類似団体と比較すると、その他に係る経常収支比率は△0.9となっている。これは主に繰出金だと考えられるが、本村の特別会計8会計において、資金不足に陥ったものはなく、簡易水道事業会計及び下水道事業3会計においては赤字補てん財源繰出もない。今後も特別会計においては独立採算での運営を十分念頭に置いた事業運営に努める。



公債費以外の分析欄

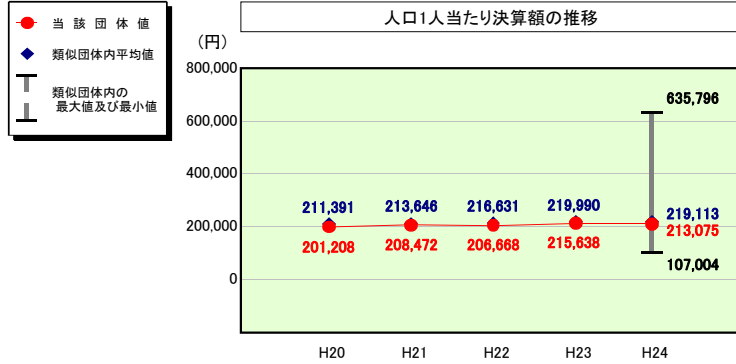
類似団体と比較すると、公債費以外に係る経常収支比率は△4.0となっている。人件費、扶助費については同水準だが、物件費△2.2、補助費△3.7であるためである。総合的に集中改革プランによる行政改革、物件費等経常経費の節減による成果が非常に大きいといえる。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

熊本県水上村

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

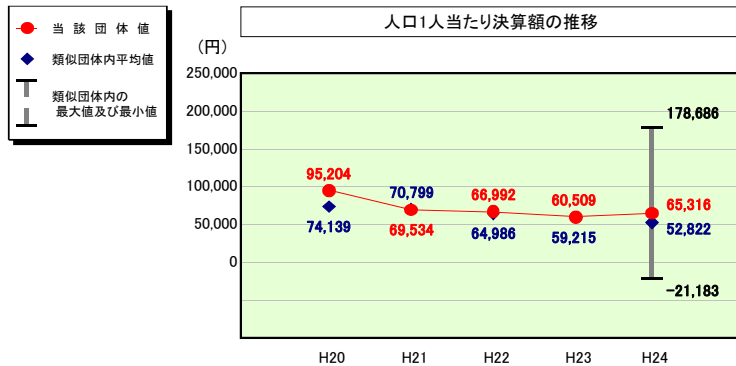
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	478,297	195,303	181,230	▲ 7.8
賃金(物件費)	20,361	8,314	17,081	▲ 51.3
一部事務組合負担金(補助費等)	54,140	22,107	26,636	▲ 17.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	2,254	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	14,893	6,081	8,709	▲ 30.2
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	1,752	715	3,938	▲ 81.8
▲退職金	▲ 47,622	▲ 19,445	▲ 20,735	▲ 6.2
合計	521,821	213,075	219,113	▲ 2.8

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	20.01	19.93	0.08
ラスパイレス指数	97.3	102.3	▲ 5.0

(注) 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。(公債費及び普通建設事業費についても同様)

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

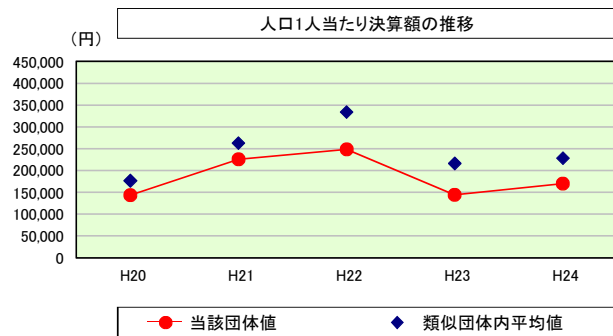


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	368,541	150,486	143,965	4.5
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	88,785	36,254	29,982	20.9
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	15,503	6,330	7,394	▲ 14.4
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	2,919	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	39	-
▲特定財源の額	-	-	▲ 7,859	-
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 312,869	▲ 127,754	▲ 123,617	3.3
合計	159,960	65,316	52,822	23.7

※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額					
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)	
H20	368,840	143,350	68.3	176,539	9.4	58.9	
うち単独分	280,241	108,916	95.5	75,430	12.9	82.6	
H21	570,533	225,507	57.3	262,834	48.9	8.4	
うち単独分	379,561	150,024	37.7	147,509	95.6	▲ 57.9	
H22	620,988	248,097	10.0	334,234	27.2	▲ 17.2	
うち単独分	277,899	111,026	▲ 26.0	135,366	▲ 8.2	▲ 17.8	
H23	357,664	144,511	▲ 41.8	216,155	▲ 35.3	▲ 6.5	
うち単独分	263,416	106,431	▲ 4.1	108,827	▲ 19.6	15.5	
H24	415,257	169,562	17.3	228,305	5.6	11.7	
うち単独分	279,622	114,178	7.3	86,611	▲ 20.4	27.7	
過去5年間平均	466,656	186,205	22.2	243,613	11.2	11.0	
うち単独分	296,148	118,115	22.1	110,749	12.1	10.0	

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)				地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	208,520	7.1	208,520	11.8	普通税	207,773	99.6	-
地方譲与税	40,485	1.4	40,485	2.3	法定普通税	207,773	99.6	-
利子割交付金	247	0.0	247	0.0	市町村民税	49,981	24.0	-
配当割交付金	168	0.0	168	0.0	個人均等割	2,514	1.2	-
株式等譲渡所得割交付金	42	0.0	42	0.0	所得割	41,742	20.0	-
地方消費税交付金	18,672	0.6	18,672	1.1	法人均等割	3,185	1.5	-
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	法人税割	2,540	1.2	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	146,161	70.1	-
自動車取得税交付金	8,805	0.3	8,805	0.5	うち純固定資産税	117,944	56.6	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	6,531	3.1	-
地方特例交付金	304	0.0	304	0.0	市町村たばこ税	5,100	2.4	-
地方交付税	1,599,554	54.8	1,485,548	84.2	鉱産税	-	-	-
普通交付税	1,485,548	50.9	1,485,548	84.2	特別土地保有税	-	-	-
特別交付税	114,006	3.9	-	-	法定外普通税	-	-	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-	目的税	747	0.4	-
(一般財源計)	1,876,797	64.4	1,762,791	99.9	法定目的税	747	0.4	-
交通安全対策特別交付金	566	0.0	566	0.0	入湯税	747	0.4	-
分担金・負担金	15,218	0.5	-	-	事業所税	-	-	-
使用料	36,857	1.3	-	-	都市計画税	-	-	-
手数料	1,941	0.1	65	0.0	水利地益税等	-	-	-
国庫支出金	169,494	5.8	-	-	法定外目的税	-	-	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-
都道府県支出金	184,184	6.3	-	-	合計	208,520	100.0	-
財産収入	9,155	0.3	591	0.0				
寄附金	565	0.0	-	-				
繰入金	50,131	1.7	-	-				
繰越金	289,880	9.9	-	-				
諸収入	35,139	1.2	393	0.0				
地方債	246,452	8.5	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	98,352	3.4	-	-				
歳入合計	2,916,379	100.0	1,764,406	100.0				

区分	平成24年度	平成23年度
合計	99.8	99.3
市町村民税	100.0	99.9
純固定資産税	99.6	98.8

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	232,133	実質収支	61,512
下水道	88,488	再差引収支	59,331
簡易水道	7,700	加入世帯数(世帯)	441
病院	3,159	被保険者数(人)	817
上水道	-	被保険者1人当り	71
国民健康保険	24,386	保険税(料)収入額	108
その他	108,400	国庫支出金	269
		保険給付費	

歳出の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	65,992	2.5	-	65,912
総務費	596,081	22.5	77,726	528,625
民生費	400,539	15.2	1,322	272,256
衛生費	137,856	5.2	21,431	122,591
労働費	5,981	0.2	-	16
農林水産業費	308,055	11.7	114,040	163,602
商工費	111,582	4.2	6,879	84,958
土木費	248,968	9.4	154,876	138,332
消防費	79,010	3.0	5,951	73,465
教育費	211,207	8.0	33,032	164,645
災害復旧費	109,812	4.2	-	29,110
公債費	368,541	13.9	-	360,510
諸支出費	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	2,643,624	100.0	415,257	2,004,022

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	993,293	37.6	866,160	854,333	45.9
人件費	478,297	18.1	459,335	453,879	24.4
うち職員給	242,640	9.2	236,225	-	-
扶助費	146,455	5.5	46,315	39,944	2.1
公債費	368,541	13.9	360,510	360,510	19.4
元利償還金	368,541	13.9	360,510	360,510	19.4
うち元金	330,970	12.5	322,939	322,939	17.3
うち利子	37,571	1.4	37,571	37,571	2.0
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	1,125,262	42.6	952,059	548,747	29.5
物件費	310,570	11.7	255,843	190,717	10.2
維持補修費	22,562	0.9	17,768	16,021	0.9
補助費等	336,776	12.7	267,244	145,790	7.8
うち一部事務組合負担金	105,829	4.0	105,829	92,497	5.0
繰出金	228,974	8.7	209,067	196,219	10.5
積立金	202,859	7.7	200,000	-	-
投資・出資金・貸付金	23,521	0.9	2,137	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	525,069	19.9	185,803	-	-
うち人件費	1,752	0.1	1,752	-	-
普通建設事業費	415,257	15.7	156,693	-	-
うち補助	127,796	4.8	12,091	-	-
うち単独	279,622	10.6	136,763	-	-
災害復旧事業費	109,812	4.2	29,110	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	2,643,624	100.0	2,004,022	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

平成24年度 熊本県水上村

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

Table with columns: 会計名, 歳入, 歳出, 形式収支, 実質収支, 他会計等からの繰入金, 地方債現在高, 備考. Rows include general accounting and a total row.

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合があります。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

Table with columns: 会計名, 総収益(歳入), 総費用(歳出), 純損益(形式収支), 資金剰余額/不足額(実質収支), 他会計等からの繰入金, 企業債(地方債)現在高, 左のうち一般会計等繰入見込額, 資金不足比率, 備考. Rows list various public utility activities.

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

Table with columns: 一部事務組合等名, 総収益(歳入), 総費用(歳出), 純損益(形式収支), 資金剰余額/不足額(実質収支), 他会計等からの繰入金, 企業債(地方債)現在高, 左のうち一般会計等繰入見込額, 備考. Rows list inter-municipal organizations.

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

Table with columns: 地方公社・第三セクター等名, 経常損益, 純資産又は正味財産, 当該団体からの出資金, 当該団体からの補助金, 当該団体からの貸付金, 当該団体からの債務保証に係る債務残高, 当該団体からの損失補償に係る債務残高, 一般会計等負担見込額, 備考. Rows include companies like Tokai Electric and Miyazaki Railway.

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

公債費負担の状況

Table showing public debt service burden by district, including columns for 区分, 平成22年度, 平成23年度, 平成24年度, 分母比.

将来負担の状況

Table showing future debt burden by district, including columns for 区分, 平成22年度, 平成23年度, 平成24年度, 分母比, and internal details.

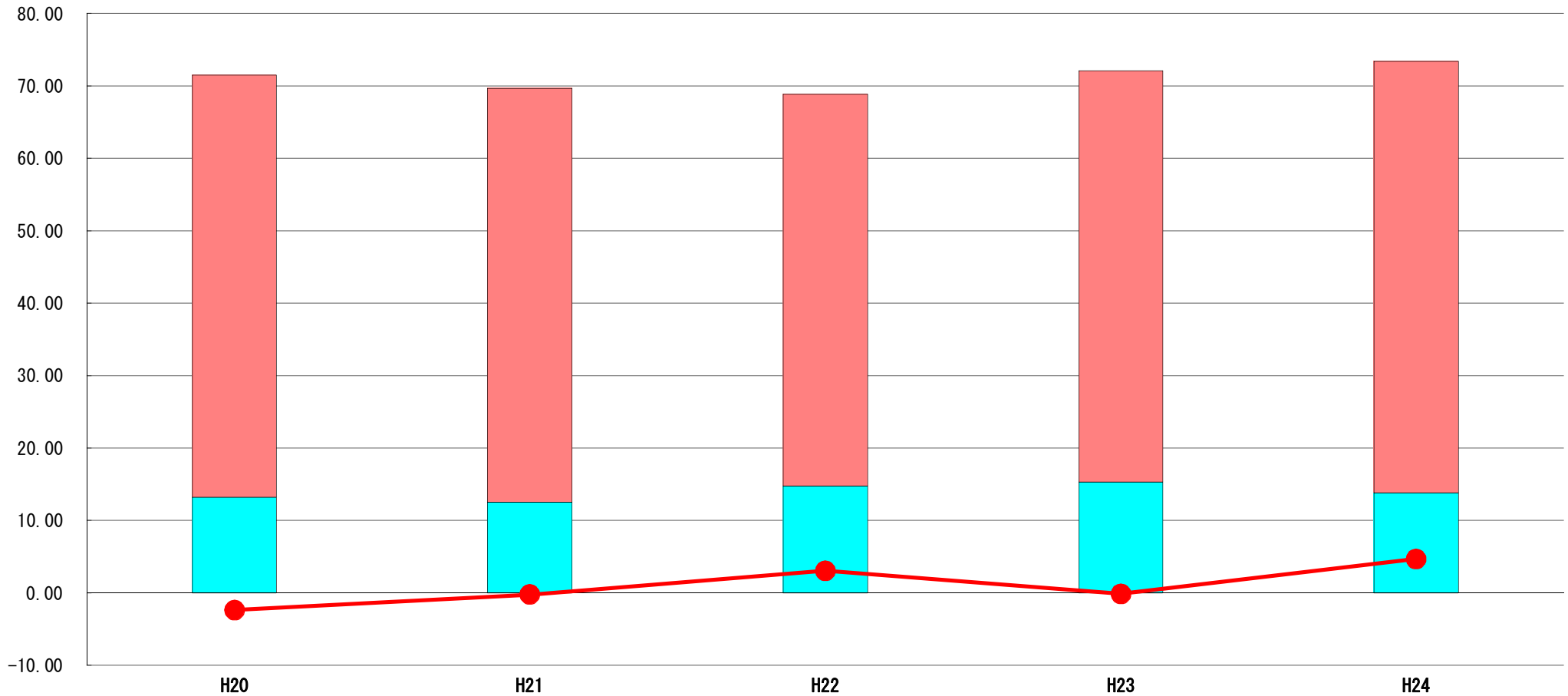
Table for financial health indicators: 健全化判断比率, 実質赤字比率, 連結実質赤字比率, 実質公債費比率, 将来負担比率.

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成24年度

熊本県水上村

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H20	H21	H22	H23	H24
■ 財政調整基金残高		58.20	57.16	54.05	56.77	59.51
■ 実質収支額		13.24	12.51	14.77	15.29	13.84
● 実質単年度収支		▲ 2.36	▲ 0.22	3.08	▲ 0.12	4.71

分析欄

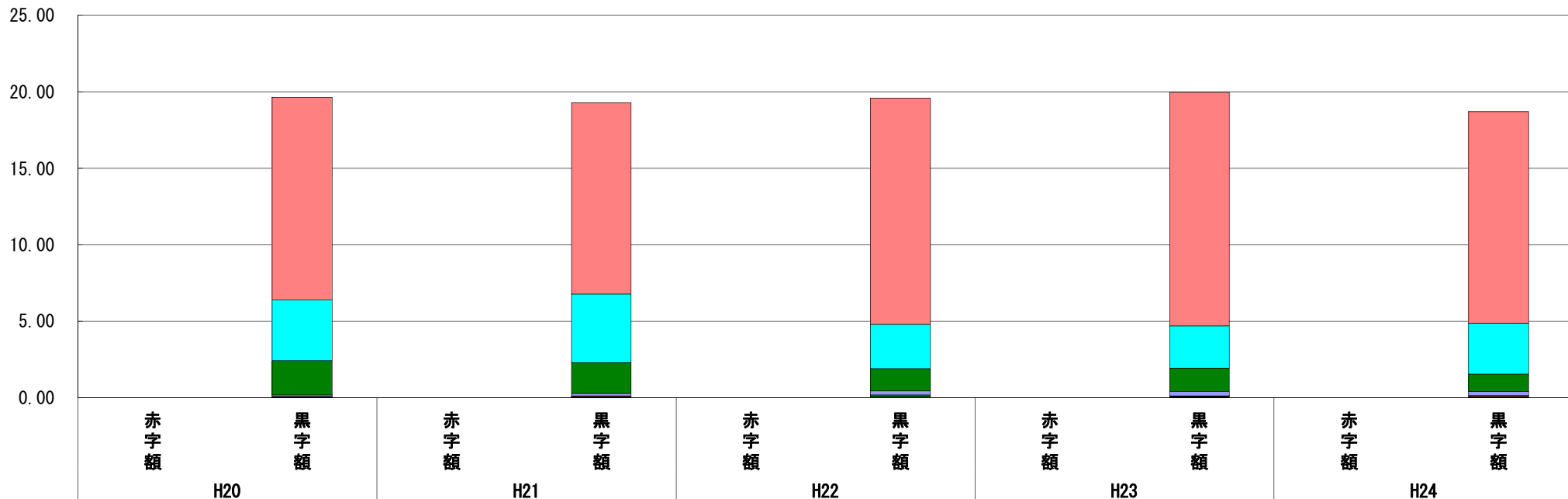
実質収支比率においては、過去5年間をみるとすべて黒字決算であるが、一般的に3～5%程度が望ましいとされていることから比率的には非常に高めであり、繰越金を多額に出す財政運営である。おおむね良好な財政運営に努めた結果ではある。また本村の特徴としては、基金積立金現在高が非常に大きく、とりわけ財政調整機能を有するもの（財政調整基金、減債基金）の比率が高い。これは財政力指数0.14をみても、交付税に頼る財政運営上不測の事態に備えるための最低限必要な財源である。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成24年度

熊本県水上村

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H20	H21	H22	H23	H24
一般会計		13.24	12.51	14.77	15.29	13.84
国民健康保険事業		3.99	4.49	2.92	2.74	3.31
介護保険事業		2.22	1.99	1.45	1.55	1.13
簡易水道事業		0.11	0.19	0.26	0.27	0.25
農業集落排水事業		0.01	0.04	0.08	0.03	0.09
後期高齢者医療事業		0.02	0.02	0.02	0.02	0.03
林業集落排水事業		0.00	0.00	0.01	0.03	0.03
特定環境保全公共下水道事業		0.02	0.05	0.08	0.06	0.02
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.04	0.00	0.00	-	-

分析欄

一般会計及び各事業会計とも赤字は発生していない状況にあるが、今後も計画的な事業運営を図り、健全な財政運営に努める。

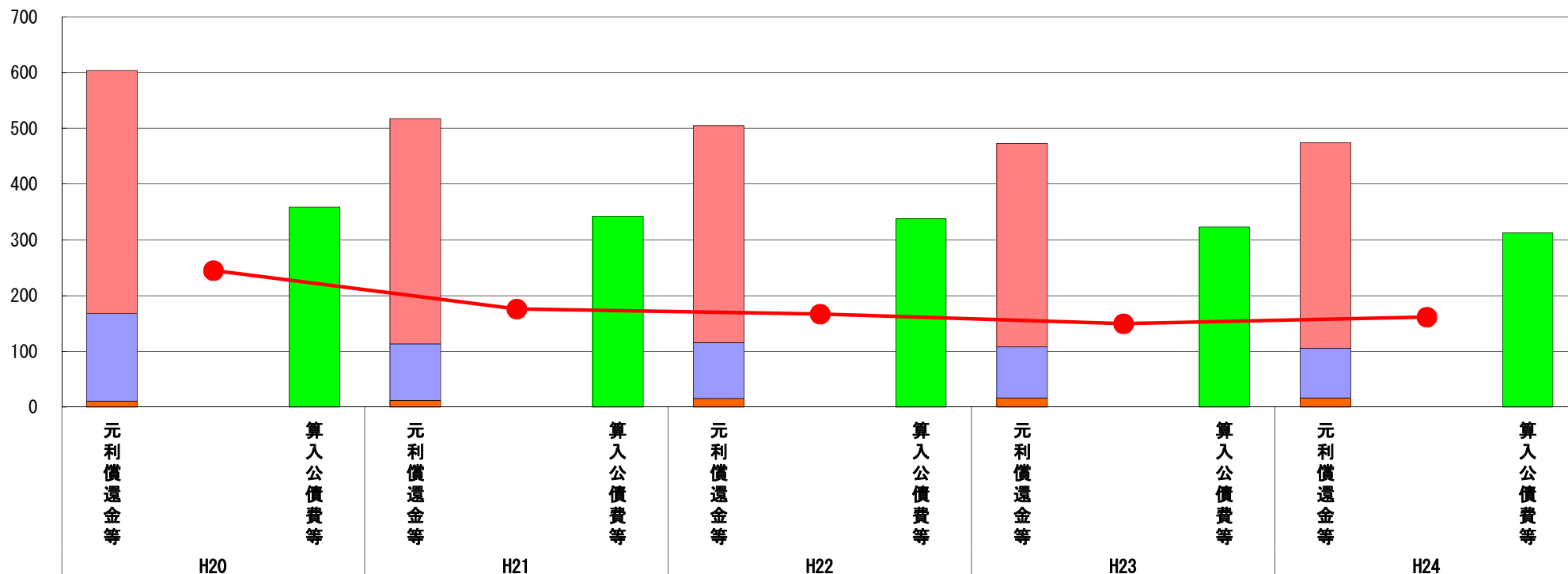
※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成24年度

熊本県水上村

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H20	H21	H22	H23	H24
元利償還金等 (A)	元利償還金		436	405	390	365	369
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		157	101	100	92	89
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		11	12	15	16	16
	債務負担行為に基づく支出額		-	-	-	-	-
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		359	342	338	323	312
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		245	176	167	150	162

分析欄

分子を構成する元利償還金は、償還のピークを經過し毎年度減少している。社会資本整備等大きなインフラ整備は終了しているため、今後も減少が見込まれる。一方で一部事務組合、公営企業に対する準元利償還金は依然として負担が大きい。整備計画が継続している一部事務組合に対する負担金には今後も注意が必要である。

※平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

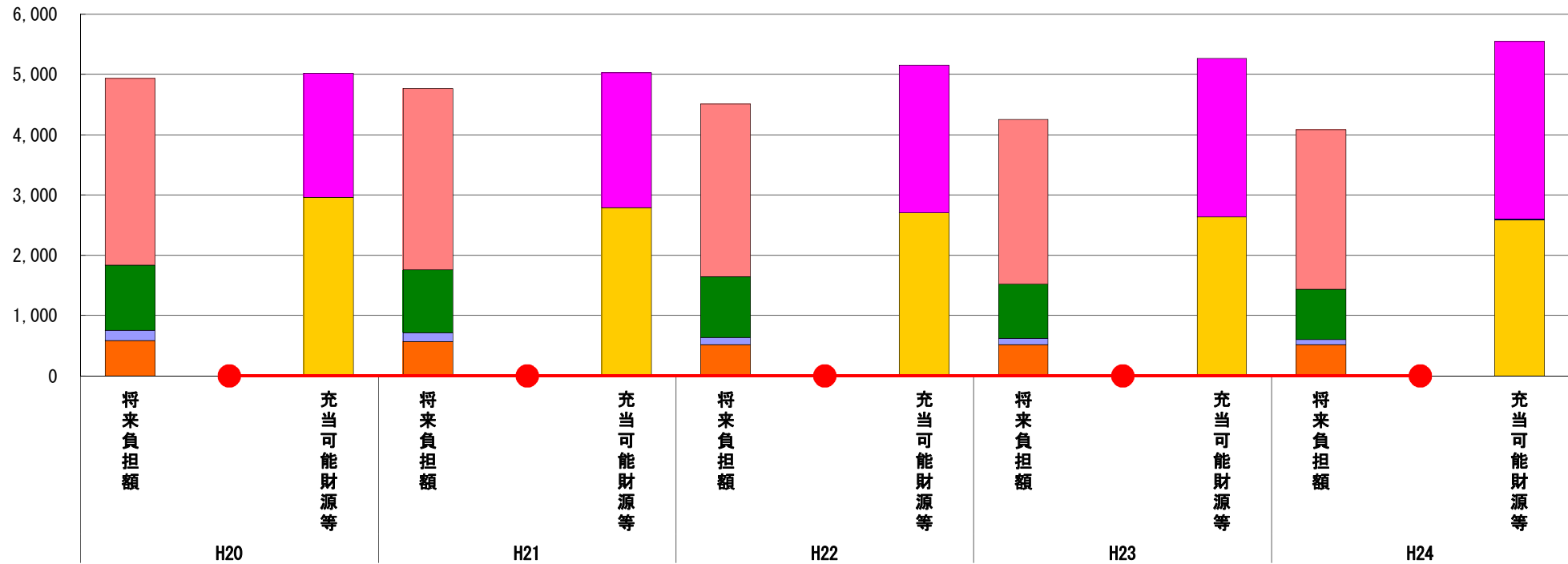
※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成24年度

熊本県水上村

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H20	H21	H22	H23	H24
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		3,097	3,006	2,864	2,731	2,646
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		1,077	1,044	1,006	908	837
	組合等負担等見込額		169	143	115	96	83
	退職手当負担見込額		588	571	522	522	519
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		2,060	2,234	2,448	2,623	2,945
	充当可能特定歳入		-	-	-	-	15
	基準財政需要額算入見込額		2,960	2,794	2,705	2,641	2,588
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 89	▲ 264	▲ 646	▲ 1,008	▲ 1,463

分析欄

一般会計に係る地方債現在高は、今後も減少していく見込みのため将来負担額も同時に減少し、一部事務組合、公営企業に対する準元利償還金は依然として負担が大きく今後もしばらくは減少しない。ただし、充当可能財源をみると、充当可能基金と基準財政需要額算入見込額の合計額が将来負担額を相殺し将来世代に負担は残らない。

※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

水上村財政健全化判断比率等（平成24年度）について

平成19年度決算から、地方公共団体の健全化に関する法律に基づき、財政健全化判断比率等を水上村でも算出しています。

これは、村の現在の財政状況及び将来の負担率等を算出するものです。

平成24年度の本村の状況は基準よりも大きく下回り、昨年度同様財政状況は良好です。

項目	平成24年度	平成23年度	基準	
			早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	-	15.0	20.0
連結実質赤字比率	-	-	20.0	40.0
実質公債費比率	10.5	11.2	25.0	35.0
将来負担比率	-	-	350.0	

特別会計の名称	資金不足比率
簡易水道事業特別会計	-
下水道事業特別会計	-
農業集落排水事業特別会計	-
林業集落排水事業特別会計	-

(注) 表示が(-)とあるのは、赤字及び資金不足が発生していないことを表しています。

○語句の説明

- ・実質赤字比率：自治体が自由に使える収入の標準額に対し、一般会計と、病院や下水道といった「公営事業会計」を除くすべての特別会計の赤字額の合計がどの程度かを示す割合。
- ・連結実質赤字比率：自治体が自由に使える収入の標準額に対する、公営事業を含む全会計の赤字額の合計の割合。公営事業会計が苦しくなり、健全化のために一般会計から繰り入れをすると、最終的には一般会計を圧迫することになります。
- ・実質公債費比率：自治体の収入に対する負債返済の割合を示す。通常、3年間の平均値を使用。18%以上だと、新たな借金をするために国や都道府県の許可が必要。25%以上だと借金を制限されます。
- ・将来負担比率：公社や出資法人も含め、自治体が将来支払う可能性がある負債の一般会計に対する比率。
- ・早期健全化基準：自治体財政健全化法が定める財政4指標(実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率)でいずれかが一定割合を超すと、破綻寸前の「早期健全化団体」に指定されます。
- ・財政再生基準：地方公共団体の財政の健全性に関する基準。自治体財政健全化法で規定された実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率の基準値のいずれかを超過した地方公共団体は、財政再生団体として、国などの管理下で計画的に財政の健全化が図られます。
- ・資金不足比率：公営企業会計で、営業収益に対する手持ち資金の不足額の割合。これらの指標はすべて、数値が低いほど健全とされます。